

## 令和4年度第3回人吉市地域公共交通活性化協議会 結果報告

日 時：令和4年11月14日（月）14:00～16:00

場 所：人吉市役所3階 301・302会議室（Web 併用）

出席者：委員18名、オブザーバー2名、計画策定受託事業者：復建調査設計株式会社2名

結 果：承認

### 議事（1）人吉市地域公共交通計画の方向性（案）について

#### 【方向性（案）の審議に入る前に市民アンケート調査等の説明】

方向性（案）を定める上で人吉市における問題点・課題を明らかにする必要があり、策定方針に沿って実施された市民アンケート調査等の結果報告、前計画である「人吉市地域公共交通網形成計画」の評価、それらによって考えられる問題点や課題について、項目ごとに説明を行う。

#### ①市民アンケート調査等結果について（復建調査設計㈱説明）

#### ②人吉市地域公共交通網形成計画の評価について（事務局説明）

[意見・質問等]

（熊本県企画振興部交通政策・統計局交通政策課 高松課長補佐（代理））

P1 のまめバスの利用状況において、調査結果ではごくわずかな利用結果となっているが、料金設定や普段の利用状況はどのような状況なのか。

P4 の予約型乗合タクシー利用者の改善してもらいたい事項として、バス停までのアクセスが大変とあるが、乗合タクシーはバス運行が難しい地域や人が利用していると考えていたが、どのような位置づけとなっているのか。

P5 の運転免許証の保有状況として、「持っていない」となっているが、もともと保有していないのか、それとも免許返納により持っていないのか。

前回協議会の際、市民アンケート調査を実施する際に公共交通を PR するチラシ等を同封してはどうかという意見があったが、対応はどうしたのか。

P11 の拠点等に関する施策・事業のうち、①拠点の創出について、財政的な課題が大きく協議が整わなかったとあるが、どこに対してどのような事業と予算を予定していて、なぜ実施に至らなかったのか、具体的な検証が必要ではないか。

P12 の⑤共通定期券の導入とあるが、熊本市内で路線バスの共通定期を導入しており、同じ交通機関であっても、ハードルが非常に高かった。鉄道とバスの異なる交通機関同士だと、さらにハードルが高いと考えている。今後も進めていく予定であれば、より具体的な検討が必要と考えられる。

P12 の情報提供に関する施策・事業のうち、④鉄道、路線バス、乗合タクシー等の一元的な公共交通マップの作成の実施状況において、検討には至っていないと記載されている。検討にも至っていない原因は何なのか。

P15 の目標④新たなターゲットの発掘の数値指標②高齢者運転免許証自主返納者数について、人吉市のみの数値が不明とあるが、把握できないのか。

P16 の評価のまとめとして、関係機関との協議にまで至っていない状況とあるが、何が原因となっているのか。また、どこまで進め、結果的に協議に至っていないのか。

施策・事業の展開にあたっては、「関係機関との連携を重視し」と記載があるが、本協議会が、

まさに議論する場であると認識している。協議会の場をうまく活用してもらいたい。

(事務局)

まめバスの利用状況に関してのご質問に対し、料金設定については他の路線バスと同等の設定となっている。普段の利用状況は、前回協議会でお示ししたが、過去の推移を見ても、利用者数は減少傾向にある。

乗合タクシーの改善してもらいたい事項の「自宅からバス停までのアクセスが大変」という意見は、アンケート調査の自由回答への記載を反映しており、他の交通機関も含め回答者の感覚的なものから挙げられていると考えている。対応については、乗合タクシーは基本的に、路線バスからの変更として導入しているものであるため、アクセスへの問題については、対応可能と考えており、検討を進めていきたい。

運転免許証の保有状況については、掲載の内容しか把握していない。また、アンケート調査の実施においては、前回協議会でご意見いただいた通り、公共交通に関する情報を記載したチラシも同封し実施した。

拠点の創出については、財源の確保を課題として挙げたが、具体的な計画内容としては、屋根やベンチの設置、表示案内を想定していた。当初は、事業箇所 14 カ所について、そのような施設設置を予定していたが、具体的に、どこになにをという検討が出来ていない状況にある。

共通定期については、ご指摘の通りハードルが高いと認識しており、結果的に実現に至っていない。

公共交通マップについてはアンケート調査等においても必要性を確認している。一元的な公共交通マップの作成については、事務局内で検討を行ったものの、実現に至っていない状況にある。

運転免許証返納者数については、人吉警察署管内のみの内訳となっている。人吉警察署へ確認を行ったが、集計方法が変わったということで、人吉市内の方のみの把握ができないという回答であった。

新たに出た課題等については、本協議会で関係機関の方にご参加いただいているため、協議会の場を活用させていただき、今後も様々なご支援をいただきながら進めていきたい。

(一般社団法人 人吉温泉観光協会 鳥越副代表理事)

人吉市地域公共交通網形成計画の計画期間はいつか。

(事務局)

平成 29 年度から令和 3 年度の計画の評価である。

(一般社団法人 人吉温泉観光協会 鳥越副代表理事)

観光に関する評価のうち、③観光利用促進に向けた情報発信という項目があり、実施済と判断されているが、どのページにどのような情報発信を行っているのか。観光客をターゲットとしているため、観光協会のホームページなどへのリンクなどが必要だったのではないかと。

②観光施設と連携した公共交通リーフレットの作成も、実施済みとなっているが、観光協会として認識できていない。

P13 の利用促進に関する施策・事業のうち、④フリーパス等の検討や⑤観光周遊ルートの検討では、結果を出すものではなく、検討することで、実施済となる項目でありクリアしやすい。検討や協議もされていないことを非常に残念に思う。今年度中の計画であれば、このまま、検討されずに計画期間が終わってしまう。

公共交通に関する計画は、地域にとって大きな課題である。せめて、市役所内部の観光系部署や

観光協会などとの協議は、積極的に進めていただきたかった。

(事務局)

ホームページの掲載については、公共交通に関するページにしか掲載できておらず、観光客の方の目に届くページへの掲載ができていない。掲載内容については、見直しは必要だが、今後は、観光系部署と連携して進めていきたい。

リーフレットについても、ご指摘とおり、詳細な情報は掲載できていない状況であり、観光客向けというよりも、住民向けとなっていると認識している。

これまでは、市役所内部だけの協議の場も設けることができていなかったため、今後は、観光部署との意見交換の場から設けていきたい。

### ③人吉市の地域公共交通が抱える問題点・課題について（復建調査設計㈱説明）

[意見・質問等]

(熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科 橋本准教授)

本日の協議会では、前回の計画の評価から、次期計画の方向性を考える場だと認識している。

前回の計画では、コロナや豪雨災害の影響もあり、達成できていない項目が多いことはわかるが、事業を多く挙げすぎており、手を付けることができなかったものもあるのではないかな。

そのことも含め、次期計画へどのように反映していくのか、検討しなければならない。事業を挙げておき、できることだけやっていくことは計画として問題である。

前回の計画では、実施するという内容のものが多く盛り込まれており、実施する/実施していないということが、直接評価となっている。

今までやってなかったことにチャレンジするという点では意味はあったが、今後は実施したことでもどうなったのかというフィードバックが必要である。例えば、乗り方教室に参加した子供たちさらにはその親はバスに乗るようになったのかなど。もっと積極的に、小学校の総合学習の授業のなかで、バスの必要性について時間をかけて教育していくことも検討しなければならないと考えている。

実施したか、実施しなかったかの、次の段階に入らないといけない。

(事務局)

ご指摘のとおり、実施することが目的化しないよう、実施した後どのような効果があったかの把握も含め検討していきたい。

実施にあたっては、人吉市単独で進めるもの、人吉・球磨地域として進めるものもある。実施範囲を含め、必要なものを検討し、フィードバックできるような事業評価としていきたい。

(大分大学経済学部門 大井先生教授)

橋本先生の発言と共通する内容も含むが、コロナと豪雨災害の影響により、実施できていないものが多い点は仕方ないと感じている。

一方で、何故実施できなかったのかをきちんと整理し、次の計画に残していくということも重要である。前計画で、実施できなかったことの焼き直しの計画策定では意味がない。

この5年間で、住み方や暮らし方が変わっていることを踏まえ、現状に見合った内容の計画にしなければならない。時代遅れな計画とならないよう留意が必要である。

次期計画の方向性を示す際、誰のための足を維持していくのかを整理し、打ち出す必要がある時

期がきていると認識している。

復興を第一に考えるのであれば、地域の活性化のため、観光客の受け入れが必要である。人吉市のみの取り組みでは難しいものの、まずは、入口となる人吉市が受ける方針を示す必要がある。

一方、日常利用においては、人口減少下で高齢者に頼りすぎると、いずれ破綻する。子供や運転免許証返納者予備軍となる人の公共交通利用の体験機会を作って取り込んでいく必要がある。

買物移動において乗り継ぎが必要な路線の見直しなど、早めに使える状況にして、免許返納後に利用できる状態にしていくという視点が必要である。

前計画の施策・事業についても、実施できないものについては、思い切って消す判断も必要である。

(事務局)

人吉市では、復興に向け、段階的にまちづくりを進めており、仮設住宅の建設など住む場所や店舗の位置の変更など、人の流れが変化している。郊外への移動も増えており、5年前とはまったく状況が変わっている。

次期計画の計画期間中にも、令和7年度中にくま川鉄道の全線開通が予定されており、計画期間中の変更も見据えて策定していく予定である。

助言いただいたように、施策・事業を削除することについても検討していく。

(大分大学経済学部門 大井先生教授)

豪雨災害の影響で、1～2年協議会が開催できなかった期間もあり、十分な評価や協議ができなかったことは認識している。

(会長)

市としては、復興に力を入れていることもあり、市役所組織の大幅な見直しなど公共交通に十分注力できなかったのは事実である。しかし、公共交通は地域にとって必要なものであるため、実効性のある計画策定を進めてもらいたい。

(熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科 橋本准教授)

大幅な人口減少は続き、今後10年間の間にも状況は大きく変わると予測される。過去の5年間の変化を踏まえ、次の5年間でどうするのかを考える必要がある。

それぞれの地域にあった交通体系を導入していくことになるが、現在の公共交通サービスの維持を前提とするのではなく、10年後を見越した長期的な視点も必要である。

行政として、これ以上できないという時期が来た際に、次の手を打つための準備を進め、将来を見据えておかなければならない。

(事務局)

ご指摘のとおり、10年後には、また状況が大きく変わることを見据え、長期的な視点を持ち、素案へ反映していきたい。

定時定路線の路線バスと予約型乗合タクシーの維持基準の考えや、財政負担の在り方も踏まえた検討を進めていきたい。

(1) 人吉市地域公共交通計画の方向性(案)について(復建調査設計㈱説明)

[意見・質問等]

(会長)

なぜできなかったのかを、きちんと把握してもらいたい。計画書として幅広く記載するものもあるが、目標を持って具体的な施策・事業の絞り込みも必要である。

(熊本県企画振興部交通政策・統計局交通政策課 高松課長補佐(代理))

地域公共交通の再構築とは、具体的にどういったことか。

また、次期計画の方向性として、重要な内容であるため、事務局の市担当者から説明してもらいたかった。

(事務局)

現時点では詳細には詰めておらず、次回の協議会で提示させていただきたい。

説明については、次回以降、同じことがないように留意にする。

(会長)

今後、素案を作成していくこととなるが、本日のご意見を踏まえ、検討してもらいたい。

《1号議案 承認》

・その他

次回の協議会は、12月下旬を予定していたが、1月に入る可能性もあり、具体的な日時、場所が決まったら、改めて連絡させていただく。

以上